おわりに

私は指導書を、授業全体の広がりや、
「学び」の目的地（ねらい）に辿り着くための道を示した「地図」として、
日常的に活用してきました。

指導書を活用しながら学習指導要領の内容を自分の中に落とし込み、
時間をかけて教師としての裾野（知識）を広げ、
じっくりと授業改善を進めていくことが、
1年先・数年先の高い指導力につながります。

指導書を、画一的な指導マニュアルとしてではなく、
教師の学びを支え、自分の可能性を広げるガイダンスとして
活用することをおすすめします。
それが今まで気づかなかった自分らしさ（自分のよさ）の発見と成長に
つながると思います。

「道徳」への「分からなさ」を出発点に、
子どもたちと教師が一緒になって
正解のない問いに向かっていく「道徳」の授業を
共につくっていきましょう。

令和３年度版　中学道徳
授業も研修も充実する！　指導書活用 私の提案

日文　教授用資料
令和４年（2022年）４月１日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。
本資料は令和３年（2021年）度版中学校道徳科内容解説資料として扱われます。

CD 33583

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文 教授用資料

令和３年度版
中学道徳

授業も 研修も 充実する！

指導書活用 私の提案

兵庫県 佐用町立佐用中学校　教頭　伊勢 幸弘

もくじ

はじめに
① 指導書とは何だろう？
② 授業準備で活用！ 朱書編
③ 授業準備で活用！ 解説編
④ 授業中に活用！ 朱書編 デジタルコンテンツ
⑤ 校内研修や自己研修で活用！ 解説編
おわりに

指導書セットを
さらに活用する
ヒント満載！

中学道徳あすを生きる教師用指導書 セット内容

- 朱書編（学年別1冊）
- 解説編（学年別1冊）
- ユーザーズガイド（1冊）
- 指導者用デジタル教材（学年別1枚、DVD-ROM）
- 指導者用デジタルデータ集（学年別1枚、CD-ROM）
- 指導者用 朗読音声CD（学年別4枚組、音楽CD）

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ！
日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは
予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登
録商標です。

はじめに

新型コロナウイルス感染防止に努めながら、授業・学級経営・生活指導・部活動・
校務分掌・保護者対応など、教員の業務内容は数え上げたらきりがありません。

そんな多忙な日々の中で、私たちは明日の時間割に「道徳」という言葉を見つけたとき、
分かっていたことなのに「明日、どうしよう」という「不安」と「困惑」が
入り混じった気持ちになります。でもなぜ、そんな気持ちになるのでしょうか。

理由として、多忙のため十分な教材研究や準備ができないことがありますが、
その他にも「道徳」という自分の専門外の教科に取り組むことへの「ためらい」や、
（なかなか言い出せないことですが）実のところ「道徳」の授業で、子どもたちに
どのような力をつけさせればいいのかが分からない「困り感」を抱いていること、
さらに教師になる前や、なってからも「道徳」そのものに自分が慣れ親しんでいない、
つまりは経験からイメージできない「分からなさ」が、その理由なのかもしれません。

でも私は、この**「分からなさ」こそが、「道徳」の授業をするうえでの大切な出発点**だと思います。

教師が抱く「道徳」への「不安」や「分からなさ」は解消すべきものですが、
そのような感情を抱くこと自体は、否定されるべきことではありませんし、
その感情を受け入れながら、よりよい授業をつくるために努力していくことが、
教師としての成長の入口であってほしいと願います。

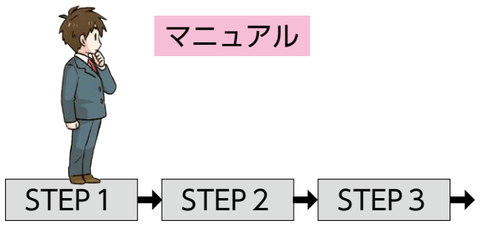
自分が「知っていること」や「分かっていること」だけを教える時代は終わりました。
そして何より**「道徳」は、子どもたちだけでなく教師も一緒になって、正解のない問いに向かっていく、「分からなさ」から始まる「学び」の共同作業**なのです。

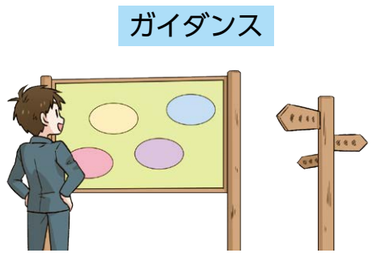
本資料が、今日も学校現場で奮闘されている先生方と
「道徳」の授業づくりについて一緒に考えながら、
不確かな未来を生きていく子どもたちが、自分という存在に希望と勇気を見つけ、
多様な他者の存在を大切にして、よりよく生きていくための道徳性を培う
一助になれればと考えています。

1 指導書とは何だろう？

学習指導要領を基盤にしてつくられた**教科書で子どもたちが学ぶものは、教科書そのものではなく、そこに書かれた様々な価値**についてです。それらの価値の意味を知ることや、価値を実現するための自他の関わりについて、試行錯誤し、**自分なりの「答え」や新たな「問い」を見つけていくことが、教科書での「学び」**だと思います。

私たち教師は、自分の経験や価値観だけで授業をすることは厳に慎まなければなりません。ただ学校現場では、教科書の基盤となる学習指導要領を熟読する時間を確保するのが難しい状況です。そんなとき、教師を助けてくれるのが指導書という存在です。





ところで指導書は、経験が少ない教師にとって、授業マニュアル（手引き）のような活用も可能ですが、ただそのためだけのものと考えるのは消極的です。なぜなら指導書は、経験の多少に関係なく、すべての教師の教科書（教材）研究に寄与するものだからです。そして**指導書の活用は、授業の画一化ではなく、一人ひとりの教師の持ち味やアイディアを生かした、多様で創造的な授業づくりにつながる**のです。

指導と類する言葉に「ガイダンス」がありますが、まさに**指導書は、「分からなさ」で立ち止まっている教師を、教科書での学びの世界（授業）にいざなうガイダンス**となります。

次ページからは、「道徳」の指導書の活用について具体例を示し、みなさんと一緒によりよい「道徳」の授業づくりについて考えていきたいと思います。

2 授業準備で活用！ 朱書編

短…授業準備の時短　質…授業の質および授業力向上

「朱書編」で効率的に授業準備をしよう

多忙な日々の中、授業準備は効率的に行いたいものです。

「効率的」には、時短だけでなく授業の質と教師の授業力向上も含まれ、指導書はこれらすべてに役立つものです。

短 授業準備の時短　質 授業の質および授業力向上

（以下、文中の短、質は上記の分類に対応しています）

私の授業準備の流れ

教師の実態として、教材を漫然と読む時間的余裕はありません。そのため、私はふだん次のような流れで授業準備をしています。

1．朱書編で教材を読む。教材と出会う。短

↓

2．おおよその授業の全体像とねらいを確認する。短

↓

3．授業の主題名、内容項目、紙面下段の指導過程と発問を確認しながら、実際の生徒と授業を具体的にイメージし、時間軸で授業の構想を練る。短 質

実際の生徒と授業を具体的にイメージしながら読み込むことで、朱書編だけでは解決できない課題や疑問が生まれます。それが、解説編の活用につながります。質

まず「教材本文」を学習者の視点で読もう

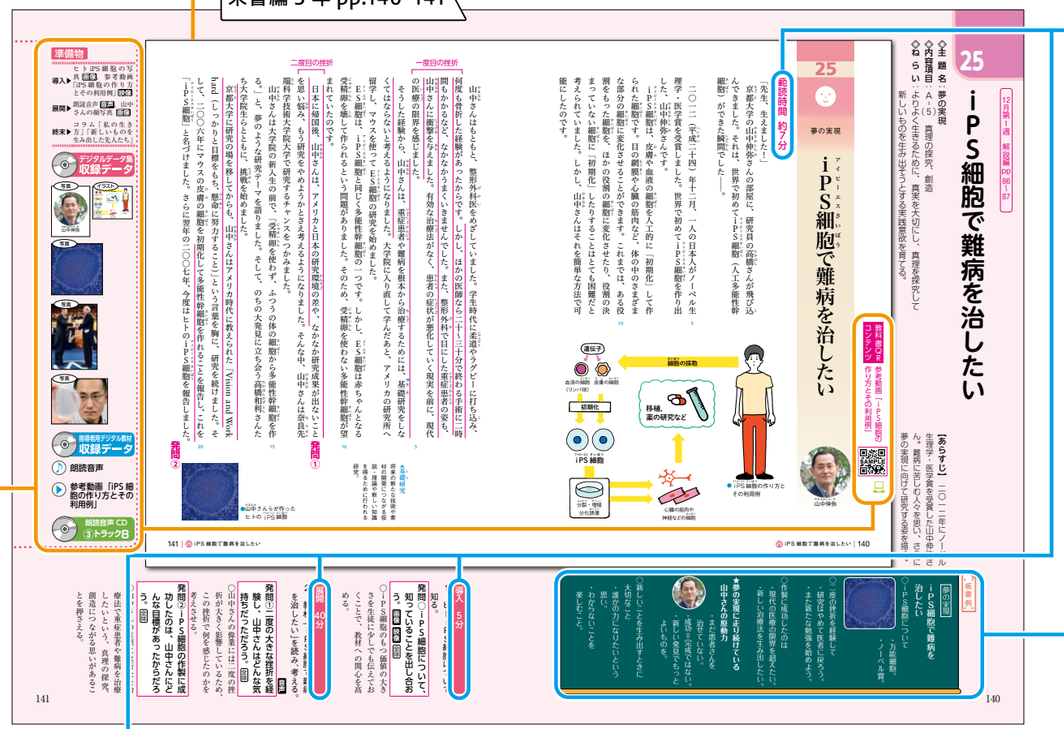
「道徳」の授業では、**教師は授業者である一方で、子どもたちと共に学ぶ学習者**でもあります。教師自身も、教材を読みながらそこに含まれる道徳的価値と向き合うことが大切です。

関連→解説編p.126「師弟同行」

朱書編は、授業に必要な情報が周辺にまとめられ、教材本文に注釈や補助的な説明が少なくすっきりしているので、**教師も生徒（学習者）の視点で読むことができます。**質

「準備物」「収録データ一覧」で掲示物を準備

紙面下段の指導過程を確認しながら、必要なものを準備します。**カラーかつ一覧で示されているので、板書や電子黒板での使い方をイメージしやすい**です。参考動画などは、あらかじめ見ておきましょう。短



「時間表示」をもとに時間配分を確認

「道徳」の授業は基本的に50分完結なので、他の教科指導より一層の時間管理が大切です。

朱書編には教材の範読時間や導入・展開・終末の時間が示されているので、**授業のタイムマネジメントの意識向上**につながります。質

特に長い教材ほど、範読時間以外のどこに時間をかけ、どこにかけないかという視点は必要で、発問の精選や生徒の活動時間を意識した授業構想につながります。質

また、さらに細かな時間配分を記入する際は、所要時間でもよいですが、**実際の授業の時刻を書き込む**と、教室の時計を見ながら見通しをもって指導できます。質

時間配分について丁寧に準備しておくことで、実際の授業ではいざというときに思い切った変更ができます。

「板書例」で実際の板書をイメージ

板書例の縦横比が実際の黒板に近いことや、**黒板に書く文字の大きさや一行の文字数が適切で、後方の座席からも見やすいレイアウトになっている**ことも活用しやすいポイントです。特に若い先生方は参考にされるとよいでしょう。

短 質

活用プラス1 紙面の「余白」も授業の肉づけに

教材本文周辺の余白が多くすっきり見やすいのも朱書編の特長です。私はこの**朱書編の余白を活用して授業の肉づけ**をしています。

授業準備の際に、解説編から得た情報や教師の気づき、予想される生徒の反応、それに対する問い返しや補助発問などを本文の付近に書き込んだりふせんを貼ったりすることで、より具体的できめ細かな授業展開を考えることができます。このとき、**生徒の反応のキーワードだけを書いておくと、生徒の考えを大きく捉え、一人ひとりの小さな違いやよさに気づく**ことにつながり、人間味と温もりのある授業が実現できます。質

このように**教師オリジナルの朱書編（創造的なマニュアル）**をつくることで、主体的に授業を行えるようになります。質

3 授業準備で活用！ 解説編 1/2

短…授業準備の時短　質…授業の質および授業力向上

「解説編」でさらに深い教材研究を

朱書編で授業準備を効率的に行ったあと、さらに教材研究を深めていきましょう。解説編にはさまざまな内容が掲載されています。**活用のポイントは、「必要なところだけ拾って読む」**です。

「分からなさ」から始まる教材研究

朱書編では、まず学習者の視点で「読み物」として教材を読みました。一方、解説編の「学習指導案」では、**授業者の視点で「考えさせる材料」として教材を読む**ことが必要です。しかし、**「授業者として具体的にどんな視点で教材を読めばいいのか分からない」**、または**「指導書がなければ授業をすることが難しい」と多くの教師が悩んでいる**のが実態でしょう。

解説編では、これらへのヒントが具体的に示されていますので、「分からなさ」を解消しながら、着実に教材研究を進めましょう。

解説編　掲載内容

- 監修の言葉　　・校閲の言葉
- 『中学道徳　あすを生きる』編集の基本方針
- 「考え、議論する道徳」の実現に向けて
- 道徳科の学習指導過程
- 教師用指導書の構成
- 学習指導案の構成
- 学習指導案（35教材）
- 道徳教育の充実を図るQ&A
  - Q１ 指導計画はどのように立てればよいですか？
  - Q２ 道徳科の授業を構想するポイントはなんですか？
  - Q３ 道徳教育と道徳科の評価は、どうすればよいですか？
  - Q４ 評価を授業改善に生かすには、どうすればよいですか？
  - Q５ 発問「自分に＋１」の意図はなんですか？
  - Q６ 教科書別冊の「道徳ノート」は、どのようなものですか？
  - Q７ 道徳科の指導の工夫には、どのようなものがありますか？
  - Q８ 道徳教育推進教師は、どのようなことをすればよいですか？
- 内容項目別教材一覧（『小学道徳 生きる力』も含む）
- 全体計画別葉（各教科等との関連表）
- 年間指導計画案
- 中学校学習指導要領

「主題名／内容項目／ねらい」をまず確認

朱書編にも載っている部分ですが、**生徒に何を考えさせたいのかをきちんと確認**しましょう。

「主題設定の理由」は読み込まなくてもOK

研究授業などの際に活用する部分ですので、ふだんの授業準備では時間をかけて読み込まなくてもOKです。生徒がこの教材で学ぶ意義や発達の段階について書かれているので、生徒を成長途中の一人の人間として見つめ、教師がどう関わっていくのか、その基盤と方向性を確認できます。短 質

評価のポイントは授業準備でこそ重要

「ねらいについて」は生徒の学習状況を見取る視点、「指導方法について」は教師の授業改善の観点です。**そうした視点・観点をもったうえで授業をすることが、指導と評価の一体化**につながります。質

評価のポイントは例ですので、自分なりの視点・観点を設定して授業を行うと、「ねらい→指導→評価→改善」といった**PDCAサイクルに基づく授業改善を無理なく進められます**。質

「教材分析」で、授業者として教材を読もう

「教材分析」は授業全体を略図で示しているので、短時間で授業の基本的な骨格と要点を捉えることができます。短

授業の大枠を捉えたうえで教材本文を読み直すことで、教材のどこに生徒の学びがあるか、どこで考える時間を取って深めればよいかなど、指導や時間配分の工夫について構想を練ることができます。質

また、「教材分析」にある**「発問の意図」を確認し、「何のためにそれを問うのか」を明確に自覚することが、ねらいを外さない指導につながります**。質

なお、**教師の発問の意図以上に生徒の発言の意図を大切にする**必要があります。なぜなら、生徒の発言の内側にある意図を捉えながら授業を進めることが、真の生徒理解につながるからです。

解説編３年 p.86「学習指導案」

25 ｉＰＳ細胞で難病を治したい

生徒用／ pp.140 – 143

●主題名／内容項目／ねらい

◇**主題名**：夢の実現

◇**内容項目**：A-（５）真理の探究，創造

◇**ねらい**：よりよく生きるために，真実を大切にし，真理を探究して新しいものを生み出そうとする実践意欲を育てる。

●主題設定の理由

◇**指導内容について**：うそや偽りのない本当の姿である「真実」や，すべての人が認める普遍的な法則や事実，正しい在り方である「真理」を，純粋なまなざしをもつ中学生の時期に触れさせ，追求しようとする意欲を育てることは，きわめて重要な課題である。さらに，新しいものを想像していくことは，よりよく生きたいと願う自分自身の未来を切りひらくだけでなく，よりよい社会をつくる原動力にもなることを感じさせたい。

◇**生徒の実態について**：中学３年生は，自分の進路について考えるという節目を迎え，自分の将来の夢や理想も高くなってくる時期である。また，誰もが本来もっている知的好奇心も，この時期の生徒はより旺盛に働くものである。しかし，挫折を経験することも増え，それによって努力することを諦めてしまう場合も出てくる。そのような生徒に，強い気持ちで夢を諦めずに挑戦し続けている山中伸弥さんの姿勢を学ばせたい。

◇**教材について**：2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した主人公・山中伸弥さんの実話である。iPS 細胞は自分自身の細胞を初期化することで，体内のさまざまな部分の細胞に変化させることが可能となる画期的な発明である。しかし，そこに至るまでにはさまざまな困難があり，それは山中さんがもとは臨床医であったことからも推察される。新しいものを生み出していくには計り知れない困難が伴う。そこに立ち向かっていく原動力（モチベーション）を，ノーベル賞の受賞が決まったときの山中さんのコメントからじっくり考えさせたい。

●評価のポイント

◇**ねらいについて**：よりよく生きたいという願いや，新しいものを創造していくことへの意欲を示す発言や記述が見られたか。

◇**指導方法について**：幾度も挫折を乗り越えながら研究を進めている山中さんの原動力となるものを話し合い，自分自身のこととして考えさせることができたか。

●他教科等との関連，家庭・地域との連携等

コラム：「私の生き方」「新しいものを生み出した先人たち」を展開や終末で活用し，新しいものを創造した人の考え方や生きる姿勢を学ばせる／**教科**：理科／**総合的な学習の時間**

人間を読む｜教材分析（教材の流れから）

教材の流れ	主人公の心の動き	発　問	発問の意図
研究員の高橋さんが主人公・山中伸弥さんの部屋に飛び込んでくる。	ようやく iPS 細胞を作ることに成功した。		
もともと整形外科医をめざしていたが，現代の医療の限界を感じ，大学院に再入学。	手術がうまくいかない状況や，有効な治療法がない患者さんを前に，挫折を味わう。	**自分なら，このような状況に置かれたときに，何を感じ，どのようにするだろう。**	山中さんがもつ新しいことへと挑戦する勇気や決断力を，自分自身と比較させる。
アメリカと日本の研究環境の差や，成果が出ないことを思い悩む。	もう研究をやめようかと考えるほどの挫折を味わう。	**二度の大きな挫折を経験し，山中さんはどんな気持ちだっただろう。**	山中さんの偉業には二度の挫折が大きく影響しているため，この挫折で何を感じたのかを考えさせる。
新たな場所で，「Vision and Work hard」を胸に研究を続け，iPS 細胞を作製。	自分の研究には意味があるんだと思えた。	**iPS 細胞の作製に成功したのは，山中さんにどんな目標があったからだろう。**	山中さんの目標には新たな治療法で重症患者や難病を治療したいという，真理の探究，創造につながる思いがあることを押さえる。
ノーベル賞を受賞し，さらに次の夢の実現に向けて走り続ける。	難病で苦しむ患者さんや家族にとっての一日の意味を心して研究し続ける。	**夢の実現に向けて走り続けている山中さんの原動力になっているものはなんだろう。**	研究を続けることで新たな発見が生まれ，それによって山中さんの目標がかなえられることを考えさせる。

86

3 授業準備で活用！ 解説編 2/2

短…授業準備の時短　質…授業の質および授業力向上

解説編 3 年 p.87「学習指導案」

25 iPS細胞で難病を治したい

人間を読む｜教材分析（教材の構造から）

一人でも多くの患者さんを救いたい

整形外科医として挫折，現代の医療の限界 ― 挫折 ― 日本の研究環境の厳しさや成果が出ないことに挫折 → Vision and Work hard

挑戦

iPS細胞でノーベル賞を受賞 → 主人公・山中さんの原動力 ← 成功＝完成ではない／真理の探究，創造

さらなる挑戦，夢の実現へ

参考情報

山中伸弥さんは，「新経連サミット2015」で自身の半生とiPS細胞作製までの経緯について語った。その中で，「Vision and Work hard」の秘話を明かしている。アメリカ留学中，当時の研究所長から「伸弥，君のビジョンはなんだ？」と聞かれ，「いい論文を書きたい，いい職に就きたい。」と答えると，「それはビジョンではない，短期的な目標だ。」と言われたという。そこで山中さんは「今治せない脊髄損傷のような患者さんをなんとか研究することによって治したい。」という思いこそが自分が研究者になった理由，ビジョンなのだと思い出したと語った。

参考 https://logmi.jp/business/articles/50989

授業の際は，iPS細胞を使用した臨床試験などの最新情報を紹介し，生徒の興味・関心を高めたい。

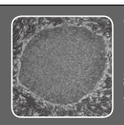
学習指導過程　範読時間 約７分

準備物　導入▶ヒトiPS細胞の写真 画像，参考動画「iPS細胞の作り方とその利用例」映像
展開▶朗読音声 音声，山中さんの顔写真 画像
終末▶コラム「私の生き方」「新しいものを生み出した先人たち」

	学習活動（発問，予想される生徒の反応）	指導上の留意点（発問の意図）
導入5分	1　ヒトiPS細胞について知る。 **発問○ iPS細胞について，知っていることを出し合おう。** 画像 映像 全体	○iPS細胞のもつ価値の大きさを生徒に少しでも伝えておくことで，教材への関心を高める。
展開40分	2　教材「iPS細胞で難病を治したい」を読み，考える。音声 **発問①二度の大きな挫折を経験し，山中さんはどんな気持ちだっただろう。** 全体 ・もう研究はやめて医者に戻ってやり直そう。 ・もう一度，別の新しい勉強をやり直そう。	○山中さんの偉業には二度の挫折が大きく影響しているため，この挫折で何を感じたのかを考えさせる。
	発問② iPS細胞の作製に成功したのは，山中さんにどんな目標があったからだろう。 全体 ・現代の医療の限界を超えて重症患者を救いたい。 ・研究によって，新しい治療法を生み出したい。	○山中さんの目標には新たな治療法で重症患者や難病を治療したいという，真理の探究，創造につながる思いがあることを押さえる。
	★発問③ 考えてみよう 夢の実現に向けて走り続けている山中さんの原動力になっているものはなんだろう。 ノート 班 ・iPS細胞でまだ患者さんの病気を治せていないという使命感。 ・成功＝完成ではないという信念。 ・さらに新しい発見をして，もっとよいものを作りたいという思い。	○研究を続けることで新たな発見が生まれ，それによって山中さんの目標がかなえられることを考えさせる。 問い返し「iPS細胞の作製を『成功』とするなら，『完成』となるものはなんだろう。」と問うことで，山中さんが中学生の頃から継続してもっている，よりよいものをめざし，真理を探究したいという思いとリンクさせる。
	発問 自分に＋1 新しいことを生み出すとき，どんなことを大切にすればよいだろう。 ノート 個人 ・自分が誰かの力になりたいという思い。 ・わからないことを楽しむこと。	○価値に迫る発問である。ノーベル賞の受賞が決定したときの山中さんのコメントからも考えさせる。
終末5分	3　教師の説話を聞く。	○コラム「私の生き方」や「新しいものを生み出した先人たち」を紹介し，それぞれの発明や発見を支える思いについて触れる。

板書例

夢の実現
iPS細胞で難病を治したい
○iPS細胞について
・万能細胞。
・ノーベル賞。



○二度の挫折を経験して
・研究はやめて医者に戻ろう。
・また新たな勉強を始めよう。
○作製に成功したのは
・現代の医療の限界を超えたい。
・新しい治療法を生み出したい。
★夢の実現に走り続けている山中さんの原動力
・まだ患者さんを治せていない。
・成功＝完成ではない。
・新しい発見でもっとよいものを。

○新しいことを生み出すときに大切なこと
・誰かの力になりたいという思い。
・わからないことを楽しむこと。

教科書QRコンテンツ 参考動画「iPS細胞の作り方とその利用例」

出典：作・編集委員会

87

「教材分析（教材の構造から）」は板書で活用

「教材分析」の別パターンである「教材の構造から」は、**登場人物と出来事、道徳的価値の関係について整理されている**ので、**構造的な板書の参考**になります。質

「参考情報」は学級だよりでも活用

参考情報は、終末の説話で活用できる話題もありますが、授業内で無理に活用しなくてもよいでしょう。たとえば**学級だよりで授業の感想を紹介する際に併記**すれば、タブレットPCで調べたり、家族と語り合ったりするきっかけになります。また、**関連書籍を学校図書として購入**しておけば、キャリア教育やSDGsなどとの横断的なカリキュラムにつながります。

「予想される生徒の反応」で実際の生徒を想定

「予想される生徒の反応」は、自分が受け持つ生徒を理解する入口です。自分のクラスの生徒だったらどんな反応を示すだろうかと、生徒の顔を思い浮かべながら想像することが教師の喜びですし、生徒理解に基づく授業づくりにつながります。短 質

さらに「問い返し」や「補助発問」を想定

生徒の反応に対する「問い返し」や「補助発問」も活用しましょう。教師が意図的に問うことで、生徒の考えの意図を明らかにし、**生徒自身も気づいていない深層の道徳的価値へ辿り着かせる**ことができます。生徒の実態に合わせて別の問い返しも想定しておきましょう。

短 質

活用プラス1 「Q&A」で「分からなさ」を解消

前述した教師が抱く「道徳」への「分からなさ」としては、次のようなものが考えられます。

- 教材のどの場面に主人公の道徳的な葛藤があるのか。
- 発問とは何か。なぜその発問をするのか。発問をどのようにつなげば、ねらいに向けて生徒の学びを深められるか。
- 「道徳」の授業のゴールはどこにあるのか。

これらを解消するためにあるのが、解説編 pp.110–135の「Q&A」です。中でもpp.114–115「Q&A Q2」で学習指導案の基本的な内容や意義について理解を深めるとよいでしょう。それから**日々の授業実践を積み重ねていくことで、「分からなさ」は確実に解消されます。**

解説編 p.114「Q&A Q2」

道徳教育の充実を図る
Q&A

Q2 道徳科の授業を構想するポイントはなんですか？

「生徒と何を深く語り合いたいか。」を明確にして学習指導案を作成しましょう。

ねらいと教材で構成した主題を，授業の内容が一目でわかる端的な表現で示します。

本教材を使用して，生徒が理解し，自ら深く考え自覚してほしい道徳的価値や道徳性の様相を端的に示します。

学習指導案 データ収録

生徒用／ pp.114 – 117

19 電車の中で

●主題名／内容項目／ねらい
◇主題名：本当の思いやり
◇内容項目：B-(6)思いやり，感謝
◇ねらい：心の通い合いのよさに気づき，他者の立場を尊重しながら思いやりの心をもって人に接しようとする態度を養う。

じ塾の女子二人が男性に席を譲る場面を見かける。その１週間前，タケシは高齢者に席を譲る際のさまざまなトラブルを友達から聞き，しぶしぶ席を立っていた。高齢の夫婦はそんなタケシの行為を勘違いし，タケシは予想外に感謝の言葉を受けたのだった。二つの場面での，女子二人の行為と心情，タケシの行為と心

4 授業中に活用！ 朱書編 デジタルコンテンツ

短…授業準備の時短　質…授業の質および授業力向上

これまでの準備をもとに、授業を楽しもう

授業準備をもとに、朱書編 と デジタルコンテンツ を活用して生徒と一緒に授業を楽しみましょう。

朱書編 にある 映像 のようなアイコンは、その場面で使用できる デジタルコンテンツ を示していますので、タイミングを見ながら提示していきましょう。

デジタルコンテンツは質向上の手段として

右のように、**教師用指導書セットには豊富な デジタルコンテンツ が用意**されています。**中身を見たことがない先生は、ぜひ一度確認**してみてください。

なお、デジタルコンテンツ の利点として教師の負担軽減がありますが、**よりよい授業をつくるために、軽減された力をどこに用いるか**を大切に、ねらい達成の手段としてどんな効果が期待されるかをきちんと吟味しましょう。 短 質

授業で活用できるデジタルコンテンツ

●指導者用デジタル教材（DVD-ROM 1枚）

指導書セット付属のため**追加購入なしで使用可能**です。

- 教科書紙面
- 朗読音声（全教材分）
- 顔絵、場面絵・写真（教科書未掲載の参考写真含む）
- 参考動画、教材アニメーション
- 参考クイズや参考資料
- 場面絵や発問などの拡大表示機能
- 総ルビ切り替え機能　・白黒反転機能
- タイマー機能　・心情メーター機能　など

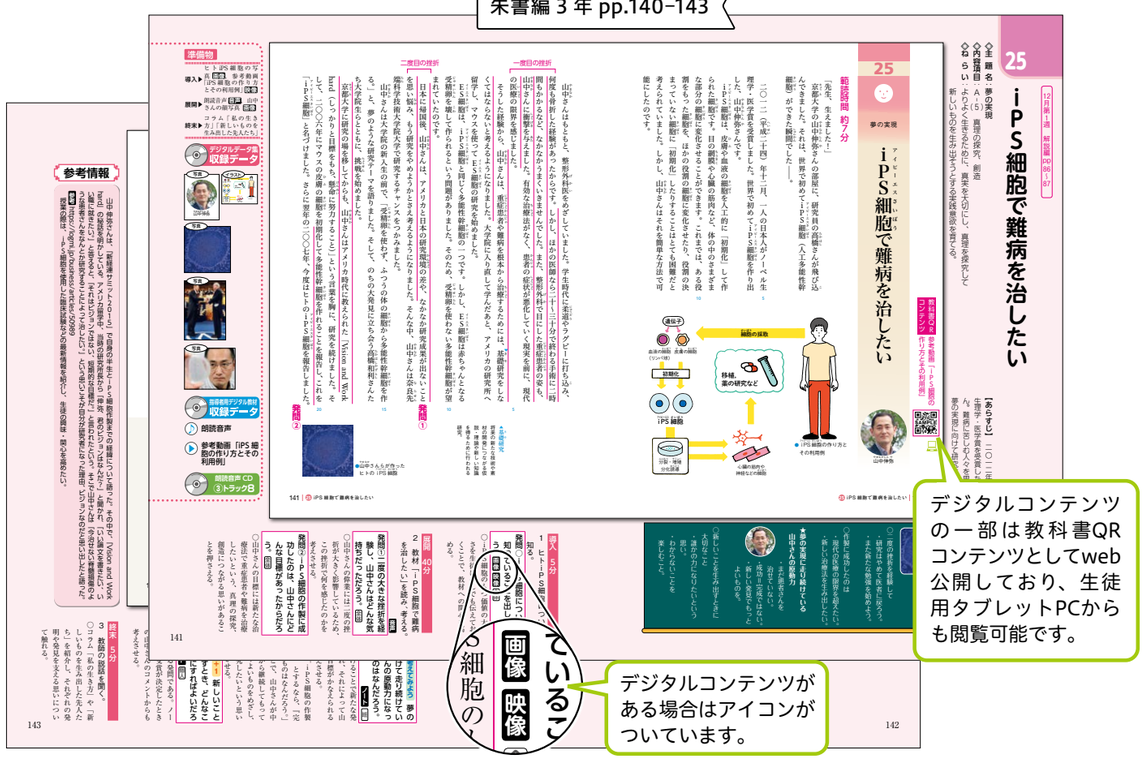
●デジタルデータ集（CD-ROM 1枚）

- 学習指導案（全教材分）
- 教科書掲載の顔絵、場面絵・写真（全教材分）
- ワークシート（全教材分）
- 道徳教育の全体計画案　・年間指導計画案
- 全体計画別葉（各教科等との関連表）

●朗読音声CD（CD 4枚組）

- 朗読音声（全教材分）

朱書編 3 年 pp.140–143



【導入】参考動画で生徒を引き込む

朱書編 をもとに導入発問をしたあと、教材によっては 参考動画 を見せましょう。**生徒の心を動かす臨場感があり、興味関心を高める**効果があります。特に富士山やオーロラのような自然のものがおすすめです。 質

また、動画の利点は、**映画館で映画を見たときのような一体感が得られる**ことです。一人ひとりの捉え方は多様ですが、動画を見たという共通の土台から意見交換を始められます。 質

参考動画 **はほとんどが5分以内**ですので、時間配分を工夫して活用しましょう。 短 質

【教材提示】範読時間を有効活用

朗読音声 を活用すると、自分で範読するよりも心の余裕が生まれ、授業中の視野が広がります。たとえば**再生中に掲示物を黒板に貼る、次の発問を確認する**など時間を有効に活用できます。 短 質

また、教材によっては 教材アニメーション を活用することで、**登場人物の心の動きをよりリアルに感じさせる**ことができます。 短 質

さらに、それらを再生中に**教材を読む生徒の様子を観察する**ことも大切です。教材のどこで生徒の表情が変わるのか、うなずく、メモをする、退屈そうなどの様子を観察することで**生徒理解に基づく指導につなげる**ことができます。 質

なお、教材を分割提示する場合は、生徒に唐突感を与えないよう事前に伝えておきましょう。

【展開】場面絵などは自分なりに活用

朱書編 に沿って授業を進めるなかで、登場人物の顔絵、場面絵・写真、ワークシート などを活用しましょう。これらの**使用頻度の高いコンテンツは全教材分収録**されています。印刷して黒板に貼る、電子黒板で提示するなど、自分なりの活用術を形成していきましょう。 短 質

また、指導者用デジタル教材 **には発問の拡大表示やタイマー、心情メーターなどの機能が多数用意**されています。

しかし、それらの機能を十分に理解しないまま無理に活用するのではなく、**必要に応じて一つずつ授業に取り入れ、1年間をとおして機能の活用術を向上**させていきましょう。焦らず長い目で自分の成長を待つ姿勢も必要です。 質

【終末】動画で生徒の心にメッセージを届ける

終末では、朱書編 にある参考情報をもとに説話をしてもよいでしょう。

また、参考動画 の中には、**教材中の人物からのメッセージ動画**もあります。生徒に教材を身近に感じさせるだけでなく、**人物の生の声として活用**します。自分たちの授業にゲストティーチャーとして登場してもらうように活用すれば、**そのメッセージは自分たちに向けられたものとして、より深く生徒の心に届く**でしょう。 質

5 校内研修や自己研修で活用！ 解説編 1/2

短…授業準備の時短　質…授業の質および授業力向上

研修は、取り組みやすいものから

学校現場では、教師間で「道徳」に対する意識と取り組みの差があることは否定できません。どうやって全教師の心のスイッチを入れるかは難しい課題です。

また、よりよい「道徳」の授業のために自己研修したいと思っても、何から始めればよいか悩むものです。

そこで、**解説編を活用してできる校内研修や自己研修のタネを数多く紹介**します。

順番はありませんので、取り組みやすいものから進めましょう。

学校内の雰囲気づくりについて

すべての教師が授業者として同じ目線で授業をつくることが最初のスイッチかなと思います。そのために、解説編を活用しましょう。全員が解説編すべてを通読するのはハードルが高いので、一緒に学ぶ部分と分担する部分とに分けるとスムーズです。特に**解説編pp.110-135「Q&A」はトピックごとでコンパクトにまとめられているので分担しやすい**です。短

●全員一緒に学ぶ部分の例

- 解説編pp.14-17「『考え、議論する道徳』の実現に向けて」、pp.18-21「道徳科の学習指導過程」
- 解説編pp.110-113「Q&A Q1（指導計画）」、pp.114-115「Q&A Q2（授業構想）」、pp.134-135「Q&A Q8（研修、指導体制）」

●各自で分担して学ぶ部分の例

- 解説編pp.116-120「Q&A Q3、Q4（評価）」、pp.122-125「Q&A Q6（道徳ノート）」、pp.126-133「Q&A Q7（指導の工夫）」（指導の工夫はさらに分担してもよい）

計画的に分担範囲を変更することで、解説編の目を通す部分も増え、共通理解が図られていきます。年度当初に研修について合意形成できなくても、年間をとおして解説編を活用しながら実践を重ねることで、次第に合意形成が実現されるでしょう。質

解説編　掲載内容

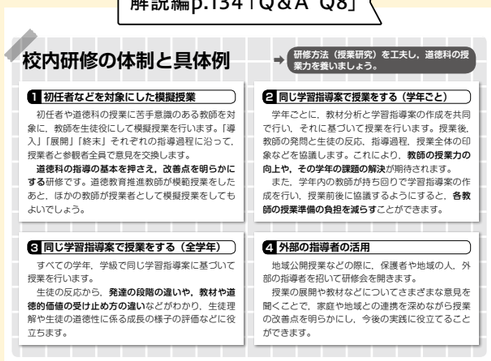
- 監修の言葉　・校閲の言葉
- 『中学道徳　あすを生きる』編集の基本方針
- 「考え、議論する道徳」の実現に向けて
- 道徳科の学習指導過程
- 教師用指導書の構成
- 学習指導案の構成
- 学習指導案（35教材）
- 道徳教育の充実を図るQ&A
  - Q 1 指導計画はどのように立てればよいですか？
  - Q 2 道徳科の授業を構想するポイントはなんですか？
  - Q 3 道徳教育と道徳科の評価は、どうすればよいですか？
  - Q 4 評価を授業改善に生かすには、どうすればよいですか？
  - Q 5 発問「自分に＋１」の意図はなんですか？
  - Q 6 教科書別冊の「道徳ノート」は、どのようなものですか？
  - Q 7 道徳科の指導の工夫には、どのようなものがありますか？
  - Q 8 道徳教育推進教師は、どのようなことをすればよいですか？
- 内容項目別教材一覧（『小学道徳 生きる力』も含む）
- 全体計画別葉（各教科等との関連表）
- 年間指導計画案
- 中学校学習指導要領

校内研修について

校内研修は、生活指導、学習指導などの**様々な指導体制の基本単位となる学年で「道徳」の指導を活性化することがスモールステップになる**と考えています。

解説編p.134「校内研修の体制と具体例」を参考に、①研修の参加者（全員／学年（複数）／個人）と②研修内容（全体的／部分的）とを、柔軟に組み合わせてもよいでしょう（模擬授業の参加者は「全員」で、研修内容は「導入」についてのみ、など）。質

解説編p.134「Q&A Q8」



校内研修の体制と具体例

研修方法（授業研究）を工夫し，道徳科の授業力を養いましょう。

1 初任者などを対象にした模擬授業

初任者や道徳科の授業に苦手意識のある教師を対象に，教師を生徒役にして模擬授業を行います。「導入」「展開」「終末」それぞれの指導過程に沿って，授業者と参観者全員で意見を交換します。

道徳科の指導の基本を押さえ，改善点を明らかにする研修です。道徳教育推進教師が模範授業をしたあと，ほかの教師が授業者として模擬授業をしてもよいでしょう。

2 同じ学習指導案で授業をする（学年ごと）

学年ごとに，教材分析と学習指導案の作成を共同で行い，それに基づいて授業を行います。授業後，教師の発問と生徒の反応，指導過程，授業全体の印象などを協議します。これにより，**教師の授業力の向上や，その学年の課題の解決**が期待されます。

また，学年内の教師が持ち回りで学習指導案の作成を行い，授業前後に協議するようにすると，**各教師の授業準備の負担を減らす**ことができます。

3 同じ学習指導案で授業をする（全学年）

すべての学年，学級で同じ学習指導案に基づいて授業を行います。

生徒の反応から，**発達の段階の違いや，教材や道徳的価値の受け止め方の違い**などがわかり，生徒理解や生徒の道徳性に係る成長の様子の評価などに役立ちます。

4 外部の指導者の活用

地域公開授業などの際に，保護者や地域の人，外部の指導者を招いて研修会を開きます。

授業の展開や教材などについてさまざまな意見を聞くことで，家庭や地域との連携を深めながら授業の改善点を明らかにし，今後の実践に役立てることができます。

自己研修について

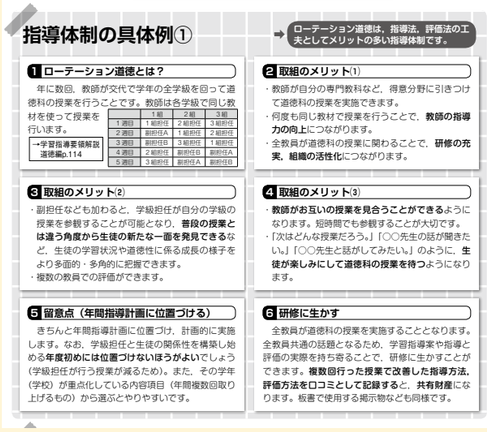
実は、日頃から行っている**授業準備そのものが自己研修**だと私は考えています。

授業前に時間をかけ思案することも大切ですが、**まずはやってみて授業後の振り返りに時間をかける**という考え方もあります。この資料を参考に、気軽に挑戦してみましょう。

指導体制について

解説編p.135には、ローテーション道徳の説明があります。方法や意義を確認し合うことで、教師全員が納得感をもって取り組めるようになります。質

解説編p.135「Q&A Q8」



指導体制の具体例①

ローテーション道徳は，指導法，評価法の工夫としてメリットの多い指導体制です。

1 ローテーション道徳とは？

年に数回，教師が交代で学年の全学級を回って道徳科の授業を行うことです。教師は各学級で同じ教材を使って授業を行います。

→学習指導要領解説 道徳編p.114

	1組	2組	3組
1週目	1組担任	2組担任	3組担任
2週目	副担任A	1組担任	2組担任
3週目	副担任B	3組担任	1組担任
4週目	2組担任	副担任B	副担任A
5週目	3組担任	副担任A	副担任B

2 取組のメリット(1)

- 教師が自分の専門教科など，得意分野に引きつけて道徳科の授業を実施できます。
- 何度も同じ教材で授業を行うことで，**教師の指導力の向上**につながります。
- 全教員が道徳科の授業に関わることで，**研修の充実，組織の活性化**につながります。

3 取組のメリット(2)

- 副担任なども加わると，学級担任が自分の学級の授業を参観することが可能となり，**普段の授業とは違う角度から生徒の新たな一面を発見できる**など，生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握できます。
- 複数の教員での評価ができます。

4 取組のメリット(3)

- **教師がお互いの授業を見合うことができる**ようになります。短時間でも参観することが大切です。
- 「次はどんな授業だろう。」「○○先生の話が聞きたい。」「○○先生と話がしてみたい。」のように，**生徒が楽しみにして道徳科の授業を待つ**ようになります。

5 留意点（年間指導計画に位置づける）

きちんと年間指導計画に位置づけ，計画的に実施します。なお，学級担任と生徒の関係性を構築し始める**年度初めには位置づけないほうがよい**でしょう（学級担任が行う授業が減るため）。また，その学年（学校）が重点化している内容項目（年間複数回取り上げるもの）から選ぶとやりやすいです。

6 研修に生かす

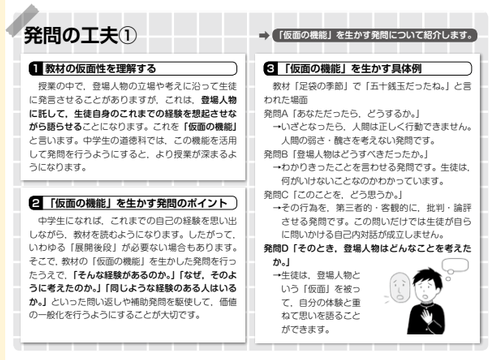
全教員が道徳科の授業を実施することとなります。全教員共通の話題となるため，学習指導案や指導と評価の実際を持ち寄ることで，研修に生かすことができます。**複数回行った授業で改善した指導方法，評価方法をロコミとして記録する**と，**共有財産**になります。板書で使用する掲示物なども同様です。

また、**別の選択肢としてチーム・ティーチング（複数指導）**があります。１つの授業を学年の複数の教師が分担して指導する方法です。授業を中心的に進める進行役（チーフ）以外に、朗読や板書のみを行う役、机間指導を重点的に行う役、授業記録（評価）を行う役などです。事前の打ち合わせや指導上の難しさはありますが、それぞれが得意とすることやできそうなことから組み合わせて、**できるだけ多くの教師で授業をつくる「共通の場」を増やしていく**ことを意識するとよいでしょう。質

発問について

発問は、指導の柱であり教師がいちばん悩むものでもあります。解説編p.128「発問の工夫」を活用し、発問の意図や効果、注意点を理解しながら、**学級の実態に応じた発問づくり**をしてみましょう。質

解説編p.128「Q&A Q7」



発問の工夫①

「仮面の機能」を生かす発問について紹介します。

1 教材の仮面性を理解する

授業の中で，登場人物の立場や考えに沿って生徒に発言させることがありますが，これは，**登場人物に託して，生徒自身のこれまでの経験を想起させながら語らせる**ことになります。これを**「仮面の機能」**と言います。中学生の道徳科では，この機能を活用して発問を行うようにすると，より授業が深まるようになります。

2 「仮面の機能」を生かす発問のポイント

中学生になれば，これまでの自己の経験を思い出しながら，教材を読めるようになります。したがって，いわゆる「展開後段」が必要ない場合もあります。そこで，教材の「仮面の機能」を生かした発問を行ったうえで，**「そんな経験があるのか。」「なぜ，そのように考えたのか。」「同じような経験のある人はいるか。」**といった問い返しや補助発問を駆使して，価値の一般化を行うようにすることが大切です。

3 「仮面の機能」を生かす具体例

教材「足袋の季節」で「五十銭玉だったね。」と言われた場面

発問A「あなただったら，どうするか。」
→いざとなったら，人間は正しく行動できません。人間の弱さ・醜さを考えない発問です。

発問B「登場人物はどうすべきだったか。」
→わかりきったことを言わせる発問です。生徒は，何がいけないことなのかわかっています。

発問C「このことを，どう思うか。」
→その行為を，第三者的・客観的に，批判・論評させる発問です。この問いだけでは生徒が自らに問いかける自己内対話が成立しません。

発問D「そのとき，登場人物はどんなことを考えたか。」
→生徒は，登場人物という「仮面」を被って，自分の体験と重ねて思いを語ることができます。

話し合いの工夫について

解説編p.129「話し合いの工夫」には、「授業中の話し合い活動」について、指導方法だけでなく**人数や机の配置例**が示されていますので、それらを参考にして授業で試してみるとよいでしょう。短 質

解説編p.129「Q&A Q7」

話し合いの工夫

話し合いを工夫して，生徒一人ひとりの考えを深化させましょう。

1 「線」から「面」へ

Aさんに「いいことに気づいたね。」，Bさんに「そういうこともあるね。」，Cさんに「なるほど。では先に進もう。」のようなやりとりでは，生徒と教師が一対一で，「線」の応答の繰り返しになってしまいます。**それぞれの意見に対して，肯定，追加，批判などを行い「面」に広げていく**ことが大切です。

2 意見だけでなく理由を聞く

なぜそのように考えたのか，理由を聞くことが大切です。**行為や物事の結果ではなく，動機や考え方を議論する**のです。もし偏った意見しか出ない場合には，**教師があえて反対の意見を表明**し，生徒の理由をさらに引き出すようにするのが効果的です。

3 話し合いの構成は意図的に

話し合いでは，なぜそのグループにするのか，構成をしっかり考えて行いましょう。隣の人と意見交流する**ペアトーク**では，自分の意見を聞いてもらい，また相手の意見を聞くことで，考えを整理し思考を深めることができます。短時間で実施でき，全体に意見を発表する下準備としても効果的です。**グループトーク**では，より多くの意見を出し合い，多面的・多角的に考え合うことができます。３，４人で，司会役などを決めると進めやすくなります。

「線」から「面」へ

グループトークでの机の配置例

4 意図的な指名

生徒を指名する際には，「道徳ノート」やワークシートに記入した内容をあらかじめチェックしておき，多様な意見が出てくるように意図的に行うことが大切です。

道徳科の話し合いの目的は，一つの意見に集約することではなく，**生徒一人ひとりが人間としての生き方と向き合えるようにする**ことです。多様な意見を出し合い，互いの意見に耳を傾けられる話し合いをめざしましょう。

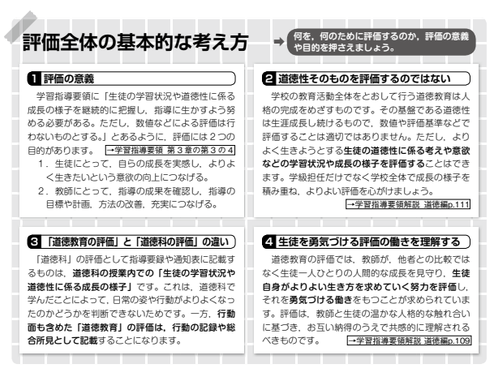
5 校内研修や自己研修で活用！ 解説編 2/2

短…授業準備の時短　質…授業の質および授業力向上

評価について（基本的な考え方）

解説編 p.116「評価全体の基本的な考え方」を読むと、**「道徳」の評価は単に授業だけではなく、生徒の成長を前向きに支援する教師の人間的な関わり方である**ことが理解できるはずです。短 質

解説編p.116「Q＆A Q3」

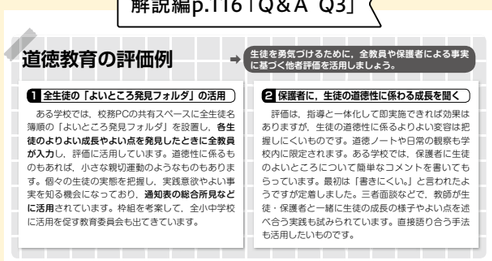


そして、「評価とは授業後に行うものである」という考え方を改め、**評価の考え方と生徒理解をもとにして授業を行う**考え方に変えていきましょう。

なぜなら、**生徒の言葉に内在する意図を、よりよく生きようとする未来志向的な意志（will）と理解することが、授業の雰囲気を明るくし、安心感と充実感をもって対話ができる授業の基盤となる**からです。これが指導と評価が一体化した様相であり、理解、共感、次への見通しをもたせる形成的評価が、主体的に学ぶ生徒の育成につながります。質

また、解説編 p.116「道徳教育の評価例」を読むことで、生徒一人ひとりの道徳性は「道徳」の授業だけで育むのではなく日常的な生活指導（学校教育全体での道徳教育）によって高めていくことが理解できます。

解説編p.116「Q＆A Q3」

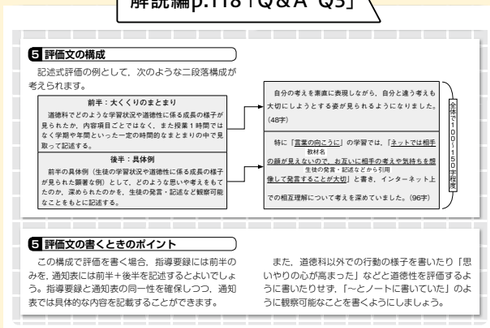


評価について（評価の方法）

個人内評価は、集団としての学びの過程から、個々人が何を感じ考え、どのように成長したかを記述するものだと捉えることができ、これこそが学校ならではの学びといえるでしょう。

解説編 p.118「評価文の構成」で紹介されている**評価文の二段落構成**は、通知表の記述に不慣れな教師にとって、書き方だけでなく個人内評価の視点や考え方として参考になります。短 質

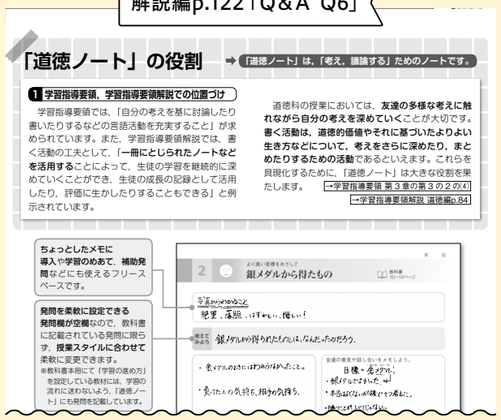
解説編p.118「Q＆A Q3」



「道徳ノート」の使い方について

解説編 pp.122–125では、**別冊「道徳ノート」の使い方を記入例付きで紹介**しています。「道徳」の授業開きの際に、このページを参考にして生徒に「道徳ノート」の使い方を説明してもよいですし、**紙の「道徳ノート」と学習者用端末の効果的な使い分け**をテーマに研修してみてもよいでしょう。短 質

解説編p.122「Q＆A Q6」



デジタルコンテンツの活用について

解説編 pp.22–23では、指導書セットの内容やデジタルコンテンツを一覧で見ることができます。短

解説編p.23「収録コンテンツ一覧」

収録コンテンツ一覧　第３学年

教材番号	教材名	指導者用デジタル教材に収録しているコンテンツ							教科書 QR コンテンツ
		朗読音声	教材アニメーション	参考動画	参考写真	参考資料	参考クイズ	外部リンク	
1	風に立つライオン	○			○				○
2	銀メダルから得たもの	○			○				
3	出迎え三歩，見送り七歩	○							
4	昔と今を結ぶ糸	○							
5	卒業文集最後の二行	○	○						
6	違うんだよ，健司	○			○				
7	命のトランジットビザ	○		○					
8	エリカ―奇跡のいのち―	○		○	○				○

デジタルコンテンツの活用にあたっては、**同僚からコンテンツの活用について意見を収集したり、同じコンテンツを利用した授業の振り返りを一緒に行ったりする**とよいでしょう。このように職場内のOJTを日常的に機能させながら、お互いの指導力を向上させていくことがとても大切です。短 質

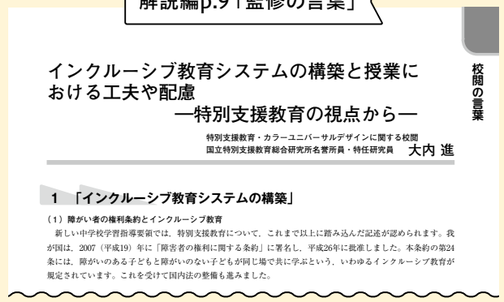
また、指導者用デジタル教材 のコンテンツは、**「まなぶ」ボタンから「コンテンツ一覧」を表示させれば全体像を短時間で確認**できます。短

さらに、年度初めや長期休業などを利用して内容を確認しておけば、授業でコンテンツをどう活用するかスムーズに検討することができます。短 質

特別支援教育について

解説編 pp.9–11「インクルーシブ教育システムの構築と授業における工夫や配慮」では、様々な特性のある子どもたちへの支援が示されており、校内研修に限らず、**校内の特別支援委員会や配慮を要する生徒の保護者との面談に向けた基礎資料として活用**できます。

解説編p.9「監修の言葉」



障がいの有無に関係なく、すべての生徒が共に学ぶ教室環境や教材・教具などの具体例が示されており、明日の授業から取り組むことができます。

また、指導者用デジタル教材 には、背景色や文字色の変更、白黒反転、総ルビ切り替えなどの機能があり、特別な支援や配慮が必要な生徒の学びを支えるうえで役立ちます。

日頃から一人ひとりの生徒の困り感や課題を理解し学習環境を整えていくことが、教育活動の基盤であり、教師としての責任であることはいうまでもありません。ですから、**デジタルコンテンツは学習指導のためだけでなく、特別な支援を要する生徒のための配慮を含め、様々なニーズのある生徒が共に学び、主体的に学習に取り組める教育環境づくりのために活用する**視点が必要です。そうした視点についても研修で深めていきましょう。